令和 2 年度　卒業式祝辞

記憶にも記録にも必ず残る 2020 年度に、高等学校の過程を修めて、本日北条高等学校を卒業される91名の皆さんおめでとうございます。

そして、感染症への対策対応を行いながら緊張感を持ち、子どもたちの学びを進めていただいたこと。厳しくも温かく一人一人と向き合い、寄り添い教え導いてくださった校長先生はじめ教職員の方々ありがとうございました。保護者を代表してお礼申し上げます。

さて、今回祝辞を述べさせていただくにあたり思案していたところ、ある言葉を目にしました。それは「美意の按配」という言葉です。落語家の笑福亭鶴瓶さんが高座のテーマにされていた言葉で、その内容を対談で聞いたラグビーの平尾誠二さんが知人や後輩が、苦難や逆境にあるときに使っていたそうです。その意味は、起こったことはすべて天の配剤によるということ、過去と他人は変えられないが未来と自分は変えることが出来るということです。様々なとらえ方ができますが、ひとつは起こったことは仕方がない、そこからの考え方や行動が、後から必ず役に立ち、その経験があるから今の自分があるということ、もうひとつは、すべての行動、現象には意味がある、だからこそ考え抜いて自分で最善の答えを導き出して行動するということです。

今年度の皆さんの研究発表の場での学びの成果、体育祭での熱く、躍動感と一体感のある姿、部活動での奮闘、健闘を間近で見させてもらい、言葉で言い尽くせない不条理、先の見えない不安から立ち上がり歩んでいく姿に、あつい熱と強い意志、そして行動を支える真っ直ぐな想いを感じ取り、大きな心身の成長を感じました。これこそが美意の按配といえるでしょう。

2020年という年が、歴史の転換点、人間関係の転換点に間違いなくなるでしょう。だからこそ、これまでの学びで得た知識や技能、表現力や創造力、思考力、人を思い、いたわる心を持ち、学びや目標に向かう姿勢、いわゆる生きる力を総動員すること、自分を、これから出会う大切な守るべき人や愛する人を、皆さんを大切に思ってくれている人を、そして北条高校で出会った心の友を大切にして、誰でもできることを誰にもできないことまで突き詰めることで、次のステージで一歩一歩の歩みを進め、自分自身の人生の目標をつかんでほしいということが私たち保護者の願いです。

西日本豪雨の年に入学し、平成から令和の改元を経て、パンデミックという大きな動きのあった三年間の歩みが、新たな北条高校の歴史、伝統になり、先輩から受け取ったタスキを後輩につないだことで文化に昇華したことでしょう。

皆さんの卒業式にともに出席できたこと、三年間の努力に親を代表して感謝します。ありがとう。

令和 3 年 3 月 1 日

卒業生保護者代表　得能朝雄